

専 門 教 養
令和元年 7 月
60 分

受 験 教 科 等
特別支援学校中・高 国 語

## 注 意

- 1 指示があるまで、問題冊子を開いてはいけません。
- 2 全て係員の指示に従って、静粛に受験してください。
- 3 机上には、受験票、筆記用具、時計以外のものを出してはいけません。
- 4 問題の音読等、他の受験者の迷惑になるような行為、携帯電話の使用及び不正行為をしてはいけません。
- 5 解答時間は60分です。途中退出はできません。
- 6 問題冊子のページ数は、27ページです。はじめにページ数を確かめてください。
- 7 解答用紙に**必要事項の記入やマークがない場合や誤っている場合には、解答は全て無効**となります。解答用紙の【1】の欄には、**受験番号**を記入し、**受験番号に対応する数字をマーク**してください。【2】の欄には、**氏名**を記入してください。ただし、【3】の選択問題を表す欄のマークは不要です。
- 8 この問題は、**教科等に関する問題** 一 ~ 四、**特別支援教育の専門に関する問題** I ~ IV の各問題から構成されています。
- 9 問題冊子の余白等は、適宜使用しても構いませんが、どのページも切り離してはいけません。
- 10 問題文中の「学習指導要領」は、特に指示がある場合を除いて、平成29年又は平成30年告示の「学習指導要領」を表しています。
- 11 問題の内容についての質問には一切応じません。

## 解答上の注意

- 1 解答は、問題文や解答用紙の注意事項に従って、解答欄にマークしてください。問題には、選択肢から選び解答する場合や、数字又は符号（-）を入れて問題文を完成させて解答する場合などがあり、解答方法が複数ある場合とどれか一つのみの場合とがあります。
- 2 「解答番号は 。」と表示のある問に対して、3と解答する場合には、次の（例1）のように解答番号  の解答欄の③にマークしてください。

(例1)

解答番号	解答欄
<input type="text" value="1"/>	① ② ● ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⊖

解答上の注意の続きを、問題冊子の裏表紙に記載してあります。問題冊子を裏返して必ず読んでください。

3 問題文中の 、 などの  には、数字又は符号（-）が入ります。次の(1)~(4)の方法でマークしてください。

(1) 、、、……の一つ一つは、それぞれ1~9、0の数字又は符号（-）のいずれか一つに対応します。それらを 、、、……で示された解答欄にマークしてください。

例えば、 に -84 と解答する場合には、次の(例2)のようにマークします。

(例2)

解答番号	解答欄
<input type="text" value="2"/>	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ●
<input type="text" value="3"/>	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ● ⑨ ⑩ ⊖
<input type="text" value="4"/>	① ② ③ ● ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⊖

なお、同一の問題文中に 、 などが2度以上現れる場合、原則として、2度目以降は、、 のように細字で表記します。

(2) 分数形で解答する場合は、符号は分子に付け、分母に付けてはいけません。また、分数は既約分数で答えてください。

例えば、 $\frac{\text{5} \text{6}}{\text{7}}$  に  $-\frac{4}{5}$  と解答する場合には、 $\frac{-4}{5}$  として、次の(例3)のように

マークします。

(例3)

解答番号	解答欄
<input type="text" value="5"/>	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ●
<input type="text" value="6"/>	① ② ③ ● ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⊖
<input type="text" value="7"/>	① ② ③ ④ ● ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⊖

(3) 小数の形で解答する場合は、特に指示されていなければ、指定された桁数の一つ下の桁を四捨五入して答えてください。また、必要に応じて、指定された桁まで⑩にマークしてください。

例えば、 に 2.6 と解答する場合には、2.60 として答えてください。

(4) 根号を含む形で解答する場合は、根号の中に現れる自然数が最小となる形で答えてください。

4 「ただし、選んだ数字の小さい順にマークすること。解答番号は 、、。」と表示のある問に対して、2と5と8と解答する場合には、次の(例4)のように「②、⑤、⑧」の順にマークします。

このとき、「②、⑤、⑧」以外の「⑤、②、⑧」や「⑧、②、⑤」などの順にマークした場合には、不正解となります。

(例4)

解答番号	解答欄
<input type="text" value="11"/>	① ● ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⊖
<input type="text" value="12"/>	① ② ③ ④ ● ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⊖
<input type="text" value="13"/>	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ● ⑨ ⑩ ⊖

一

## 教科等に関する問題

次の文章を読んで、後の各問に答えよ。

掲載許可が得られていませんので、掲載いたしません。

掲載許可が得られていませんので、掲載いたしません。

掲載許可が得られていませんので、掲載いたしません。

---

掲載許可が得られていませんので、掲載いたしません。

掲載許可が得られていませんので、掲載いたしません。

(野矢茂樹「心という難問」による)

問1 傍線部(ア)・(イ)のカタカナを漢字に直したとき、その漢字と組み合

わせて二字熟語になるものは、次の各群の1～4のうちのどれか。

解答番号は(ア)が 、(イ)が 。

(ア) クサリ

4 3 2 1  
収 示 配 連

(イ) セツシユ

4 3 2 1  
包 那 稚 写

問2 傍線部(1)「

＊

「とあるが、「＊」について説明したものとして最も適切なものは、次の1～4のうちではどれか。解答番号は 4。

1 私たちは自分以外の「＊」と何らかの「＊」を共有するものなので、「＊」を一切共有しない「＊」は存在しないということ。

2 「＊」とは部分的にしか「＊」を共有することができないものであり、「＊」であるかどうかは共有する「＊」の多寡によって決まるということ。

3 自分と関わりがないような「＊」であっても、共感できる部分が少なくとも一つはあるため、世界に認識できない「＊」はいないということ。

4 人間同士であれば言語は違ってても、「＊」を共有することはできるので、世界に存在する「＊」であれば自分と関係しない者はいないということ。

問3 傍線部(2)「

＊

「とはどういうことを説明したものとして最も適切なものは、次の1～4のうちではどれか。解答番号は 5。

1 人が集まり同じ時間を共有することで「＊」が創造されるので、私たちの存在するところには必ず「＊」が存在するということ。

2 独自の価値判断をする人々が多くいるので、私たちは協同して何かをなすことができない世界で生活しているということ。

3 私たちは同じ時間を過ごしていても同じ「＊」を生きていることのできないので、それぞれが主人公として振る舞っているということ。

4 私たちは自らの関心によって価値付けた世界で、「＊」を部分的に共有しながら、各々の日常を共に生きているということ。

問4

Ⅶ 段落の役割について述べたものとして最も適切なものは、次の1～4のうちではどれか。解答番号は 6。

- 1 直前の段落で述べた仮説を受け、Ⅶ 段落では、現代哲学で論じられている内容を引用し、筆者の主張を補強する役割。
- 2 直前の段落で確認した一般論に変えて、Ⅶ 段落では、新たな観点を導入し、筆者の主張を転換する役割。
- 3 直前の段落で提示された事柄に対して、Ⅶ 段落では、異なる観点から論を展開し、筆者の主張につなぐ役割。
- 4 直前の段落まで述べてきた具体的な内容を受け、Ⅶ 段落では、抽象的に言い換え、筆者の主張をまとめる役割。

問5 傍線部(3)「

＊

」とあるが、その理由

を説明したものとして最も適切なものは、次の1～4のうちではどれか。解答番号は 7。

- 1 言葉の運用にはルールがあるため、的確に使用されているかを判断するための規準を必要とするが、その規準は既に定まっていると考えているから。
- 2 言葉は規範的に使用されなければ成立せず、的確に使用されているかを判断するためには、自分以外の他者による評価を必要とすると考えているから。
- 3 言語の運用には規準が定まっていて、その規準は言語を的確に運用する他者との交流を通して、身に付けていくべきものだと考えているから。
- 4 言葉は規範的に用いられているため、どんな単語でも使用できるのではなく、判断するための根拠を全員で確認し合わなければならぬと考えているから。

次の文章を読んで、後の各問に答えよ。

新聞記者の自分は、ある夜、兼ねてから話のよく合う大尉から、次のような話を聞かされた。

運送船備後丸に乗っていたところ、旧友の糸井国之助と再会した。糸井国之助というのは「＊＊」をしている糸井専造の一人息子で、僕（大尉）が十五の時、その「＊＊」に乗せてもらったことがきっかけで仲良くなった人物である。それから僕は、毎日のように国之助と馬に乗り、互いに往来するようになった。

掲載許可が得られていませんので、掲載いたしません。

掲載許可が得られていませんので、掲載いたしません。



掲載許可が得られていませんので、掲載いたしません。

---

掲載許可が得られていませんので、掲載いたしません。

問1 傍線部(1)

※

「とあるが、この部分について説明したものとして最も適切なものは、次の1～4のうちではどれか。

解答番号は 7。

1 「※」を営むことで、「※」や「※」たちと交流する機会を得られることが、「※」の生活上の楽しみとなっているということ。

2 馬を借りに来た者たちが、うまく馬を乗りこなせずに馬を借りに来なくなることが、馬乗りとしての「※」の誇りを満たしているということ。

3 乗馬術を教えることを通して、今の若い者たちの軟弱な精神を鍛え直してやるのが、武士の出である「※」にとっての生き甲斐となっているということ。

4 「※」や「※」であっても、同じように妥協することなく厳しく指導することに、頑固者の「※」は意義深さを感じているということ。

掲載許可が得られていませんので、掲載いたしません。

(国木田独歩「馬上の友」による)

問2 傍線部(2)

＊

「とはどういう

ことかを説明したものとして最も適切なものは、次の1～4のうちではどれか。解答番号は 8。

1 「＊」が「＊」に本を貸したことで、「＊」に知識と想像力を与え、ずっと嫌悪していた馬乗りの日常から離れ、自分の将来に思いを馳せることができるようになったということ。

2 「＊」の将来の夢であった船乗りの知識を「＊」に与えて、共に語り合うことで、馬乗りとしての将来しか考えられなかった

「＊」に船乗りになるという夢を与えられたということ。

3 「＊」が「＊」に将来について考えるよう仕向けたことで、「＊」は自ら読書をするようになり、本から得た知識により、

将来に思いを巡らせることができるようになったということ。

4 「＊」が「＊」に本を貸して読ませることで、知識を与えただけでなく、その知識を基に「＊」と語り合い、将来を思い描く機会や将来の志を立てるきっかけを与えたということ。

問3 傍線部(3)

＊

「とあるが、」

＊

「とき」の「＊」の様子について説明したものとして最も適切なものは、次の1～4のうちではどれか。解答番号は 9。

1 自分の心を知るものは「＊」一人であると思い、力となってくる友人としてたのんでいたのに、結局、自分の行きたかった東京に「＊」だけが行くことになり、「＊」に裏切られたという悲痛な思いに必死に耐えている。

2 いつまでも自分と交友を深めてくれるものと信じ切っていた「＊」が船乗りになるために東京へ留学することを、現実感をもって受け止めることができずにいるとともに、突然の「＊」の告白に対する驚きで言葉を失っている。

3 船乗りになるために行きたかった東京に自分は行くことができず、「＊」が行くことになったことに対する衝撃や、唯一無二の親友である「＊」が自分の許から去ってしまう悲しみから、何も言葉を発することができずにいる。

4 東京に行くことが決まっていたのに、四、五日前になるまで打ち明けてくれなかった「＊」に対する不満と、自分に相談することもなく東京行きを決めてしまった「＊」に対する憤りを口に出さぬよう必死にこらえている。

問4 傍線部(4)「

＊

」とあるが、この表現描写について説明したものと最も適切なものは、次の1～4のうちではどれか。解答番号は 10。

1 大空が霞んでいる様子は二人の涙がにじんでいることを表し、雲雀の啼き声は声を上げて泣きたい二人の心情を伝えるかのように、情景に心理を重ねて表現している。

2 親友とのつらい別れの場面と春の穏やかで美しい情景とを対照的に描写することによって、二人の別れを一層切なく、映画的一幕を観ているかのように印象深く表現している。

3 咲き乱れる花やどこを眺めても美しい景色の描写が、友との別れの悲しみをこらえつつも「＊」の新しい門出を祝福している。「＊」の気持ちを比喩的に表現している。

4 別れに際してうまく言葉を交わせない二人に対して、高らかに啼く雲雀を取り合わせることにより、互いの思いは無言のうちに雄弁に語られているということを表現している。

問5 傍線部(5)「

＊

」とあるが、このときの「＊」の様子について説明したものと最も適切なものは、次の1～4のうちではどれか。解答番号は 11。

1 突然別れを告げた「＊」が、その後も石橋に立って見送っている姿を目にして、思いを断つべく涙をたたえて別れを告げた「＊」の気持ちに気付いて胸を打たれ、惜別の情が一気に込み上げていく。

2 「＊」が切望していた将来の夢を「＊」が実現したことに対する心苦しきを感じるとともに、「＊」に対する恨みや嫉みを微塵も感じさせることなく見送っている「＊」の様子を見て、後悔の念で一杯になっている。

3 出立の前日の「＊」の門出を祝す饗宴に参加せず、無念の思いに打ちひしがれていた「＊」が、誰よりも遠くまで見送ってくれたことに対して感謝するとともに、石橋に立って見送る「＊」の姿を見て感激している。

4 目に涙を含んで去って行く様子や、いつまでも見送ってくれる「＊」の様子から、二人の夢であった東京行きを一人だけ実現できずに、悔しい思いを抱いている「＊」の分まで東京で成功するぞという熱意に満ちている。

三

次の文章を読んで、後の各問に答えよ。

掲載許可が得られていませんので、掲載いたしません。

掲載許可が得られていませんので、掲載いたしません。

〔『新編日本古典文学全集』「曾我物語」(小学館)から作成〕

問1 傍線部(1)「

＊

」とあるが、筆者がこのよう

に述べた理由として最も適切なものは、次の1～4のうちではどれか。解答番号は 12。

1 一の宮は、都から追放されたことで、かつて春の蘭省で終生の友情を交わした友人も、雨の夜の廬山のような静かな夜を共に過ごした家族も自分のもとを去って行ってしまったから。

2 一の宮は、天皇によって幽閉されたことで、春の蘭省に咲き乱れる色とりどりの花や、夜の霧雨に煙る廬山のような美しい風景を二度と見ることができなくなってしまったから。

3 一の宮は、出家したことで、宮中での華やかな暮らしから、まるで雨の夜の廬山に結んだ草庵の内にいるような寂しい暮らしに変わってしまったから。

4 一の宮は、政争に敗れたことで、美しい花や錦の絹織物を贈り合った人々と離れ離れになり、廬山に結んだ草庵に降る雨のような寂しい気持ちで心を支配しているから。

問2 傍線部(2)「

＊

」の解釈に関する説明として最も適切なものは、次の1～4のうちではどれか。解答番号は 13。

1 小野の外れにある一の宮の住まいは、雪深い山中にあっても寂しさを感じさせない風流な様子であるのに、中將が参上したことで優美さがより際立って見えたということ。

2 雪が非常に深く降り積もる、人の往来もない冬の山里であるにもかかわらず、中將がただ一人で一の宮をお訪ね申し上げたのはとても情け深いことであったということ。

3 都でさえ人の往来も珍しい雪の中を、訪ねるべきか迷っていたものの、一の宮が昔と変わらない様子で迎えてくれたことは、中將にとって大きな驚きであったということ。

4 中將は、過去に一の宮に臣下として仕えた者であり、その忠義の心は深いものであったため、雪深い今の住まいに会いに来ることとは自然なことであったということ。

問3 傍線部(3)「

＊

」とあるが、その

理由を、一の宮と中将との関係を踏まえて説明したものと最も適切なものは、次の1～4のうちではどれか。解答番号は 14。

1 重陽の節句のとき、是貞親王家歌合で「

＊

」という和歌を詠んだこと

などが思い出され、一の宮のことがたまらなくいとおしくなったから。

2 重陽の節句のとき、菊の着せ綿の贈り物を頂いた返礼として

「

＊

」

という和歌を詠んだことなどが思い出され、一の宮が気の毒に思われたから。

3 交野に鷹狩りに行ったとき、道中の家に植えられていた桜を見

て「

＊

」

と歌を詠み、一の宮に賞賛されたことなどが思い出され、悲しい気持ちになったから。

4 交野で鷹狩りをしたとき、大して狩りもせず桜を見ては酒を

飲んで「

＊

」などと歌を詠んだことなどが思い出され、しみじみと切なくなつたから。

問4

傍線部

I、

II

の和歌の贈答について説明したものと最も

適切なものは、次の1～4のうちではどれか。解答番号は 15。

1 I は、一の宮が宮中ではなく雪深い山里で寂しく暮らしている

ことを夢ではなからうかと思っていると詠み掛けているのに対し、II は、夢などと思つてはおらず、むしろこれまで世を捨てなかつたことを後悔している気持ちで詠んでいる。

2 I は、悲しいながらも雪深い山里でかつての主人と出会えた

ことを夢のようにうれしく感じていると詠み掛けているのに対し、II は、この世の中は夢か幻のようだと思つていたが、夢

でも中将に会えたことがうれしいという気持ちを詠んでいる。

3 I は、久しぶりに会う一の宮がすっかり成長していたという

喜びの気持ちを詠み掛けているのに対し、II は、中将が長い間

会いに来なかつたのは自分のことを疎ましく思つていたからではないかと考えていた、これまでの自分を反省する気持ちを詠んでいる。

4 I は、雪深い山里に暮らす一の宮の身を案じながらも会えた

ことに感動していると詠み掛けているのに対し、II は、自らの身を顧みると、みずばらしく不自由な生活をしている今の自分の姿を中将に見られたことが悲しいという気持ちを詠んでいる。

問5 二重傍線部A～Dの敬語のうち、筆者から一の宮への敬意を表し

ているものの組合せとして最も適切なものは、次の1～6のうちで

はどれか。解答番号は 16。

1 AとB

2 AとC

3 AとD

4 BとC

5 BとD

6 CとD



**四**

次の文章を読んで、後の各問に答えよ。(設問の都合で返り点・送り仮名を省いたところがある。)

掲載許可が得られていませんので、掲載いたしません。

『新釈漢文大系』「伝習録」(明治書院)から作成

問1 傍線部(1)「**\***」を解釈したものとして最も適切なものは、次の1～4のうちではどれか。解答番号は **17**。

- 1 どうして周囲の評判を気にしたり、自分の名を人に知られることを求めたりすることだけに限られるでしょうか。
- 2 なぜ人は外部の人に知識を求めたり、自分の名を知られたりすることに執着してしまうのでしょうか。

3 必ずしも外部の人のためだけに学問をするのではなく、自分が成長するために学問をしなければならぬだろう。

4 自分のためだけに学問をするようなことがあってはならず、必ず学問は人のためにしなければならぬのである。

問2 傍線部(2)について次の①、②の各問に答えよ。

- ① 傍線部(2)中の「**\***」について、この部分を「いづくんぞさらにくふうのなをこのむあるをえん」と読むとき、これに返り点を付したものととして最も適切なものは、次の1～4のうちではどれか。解答番号は **18**。

- 1 掲載許可が得られていませんので、掲載いたしません。
- 2 掲載許可が得られていませんので、掲載いたしません。
- 3 掲載許可が得られていませんので、掲載いたしません。
- 4 掲載許可が得られていませんので、掲載いたしません。

② 傍線部(2)の内容を解釈したものととして最も適切なものは、次の1、4のうちではどれか。解答番号は 19。

1 実質を得ようとする心は、学問をする者にとって飢えた者が食物を求めたり、渴いた者が飲み物を求めたりするように自然なことなので、どこにも工夫の余地などないということ。

2 若くして実質に辿り着いた者が、飢えた者が食物を求め、渴いた者が飲み物を求めるように名声を得ようとすることは、一度得た実質を失ってしまう愚かな行為だということ。

3 飢えた者が食物を求めたり、渴いた者が飲み物を求めたりするような努力を、名声を得ようとする工夫に応用するならば、その名は必ず世に広く知られるだろうということ。

4 実質を求める心が、飢えた者が食物を求めたり、渴いた者が飲み物を求めたりするように強烈な欲求であるならば、自身の名声を求める余裕などあるはずがないということ。

## 特別支援教育の専門に関する問題

I 特別支援教育に関する次の各問に答えよ。

[問 1] 次の記述ア～エのうち、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（平成28年4月1日施行）に照らして正しいものを選んだ組合せとして最も適切なものは、下の1～6のうちではどれか。解答番号は  。

ア この法律は、障害者基本法の基本的な理念にのっとり、障害を理由とする差別の解消を推進し、全ての国民が、障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に資することを目的としている。

イ 障害者とは、身体障害、知的障害、精神障害（発達障害を含む。）その他の心身の機能の障害がある者であって、その障害に起因する困難により、継続的に日常生活又は社会生活に相当な制限を受ける状態にある者であり、社会的障壁を含まないものをいう。

ウ 行政機関等及び事業者は、社会的障壁の除去の実施についての必要かつ合理的な配慮を的確に行うため、施設の構造の改善及び設備の整備に努めるよう規定されているが、職員に対する研修は規定されていない。

エ 行政機関等及び事業者は、その事務又は事業を行うに当たり、障害を理由として障害者でない者と不当な差別的取扱いをすることにより、障害者の権利利益を侵害してはならないとされている。

- 1 ア・イ
- 2 ア・ウ
- 3 ア・エ
- 4 イ・ウ
- 5 イ・エ
- 6 ウ・エ

[問 2] 学校教育における合理的配慮に関する記述ア～エのうち、「特別支援教育の在り方に関する特別委員会報告1」（中央教育審議会初等中等教育分科会 平成24年7月13日）に照らして正しいものを選んだ組合せとして最も適切なものは、下の1～6のうちではどれか。解答番号は  。

**ア** 合理的配慮とは、障害のある子供が、他の子供と平等に教育を受ける権利を享有・行使することを確保するために、学校の設置者及び学校が必要かつ適当な変更・調整を行うことであり、学校の設置者及び学校に対して、体制面、財政面において、均衡を失した又は過度の負担を課さないものである。

**イ** 障害のある子供に対する支援については、法令に基づき又は財政措置により、国、都道府県及び市町村は、教育環境の整備をそれぞれ行う。これらの合理的配慮の基礎となる「基礎的環境整備」を基に、学校の設置者及び学校は、各学校において、障害のある子供に対し、法令に基づいて一律の環境整備を行う。

**ウ** 合理的配慮は、一人一人の障害による困難を軽減するために提供されるものであるため、学校の設置者及び学校は、合理的配慮の観点を踏まえ、本人と保護者の意向を聞き取る前に、提供可能な合理的配慮を考えて提供することが求められ、その内容を個別の教育支援計画に明記する。

**エ** 合理的配慮は、その障害のある子供が十分な教育が受けられるために提供できているかという観点から評価することが重要であり、それについても研究していくことが重要である。例えば、個別の教育支援計画、個別の指導計画について、各学校において計画に基づき実行した結果を評価して定期的に見直すなど、PDCAサイクルを確立させていくことが重要である。

- 1 ア・イ
- 2 ア・ウ
- 3 ア・エ
- 4 イ・ウ
- 5 イ・エ
- 6 ウ・エ

[問 3] 特別支援教育に係る教育課程についての記述ア～エのうち、正しいものを選んだ組合せとして最も適切なものは、下の 1～6 のうちではどれか。解答番号は 22。

**ア** 特別支援学級において特別の教育課程を編成する場合、障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るため、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領に示す自立活動を取り入れることとする。

**イ** 特別支援学級においては、特に必要がある場合は、特別の教育課程を編成することができるため、指導する内容は、指導に当たる教員の裁量によって特別に決めて指導することができる。

**ウ** 知的障害者である生徒に対する教育を行う特別支援学校の中学部の教育課程は、国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術・家庭及び外国語の各教科、特別の教科 道徳、総合的な学習の時間、特別活動並びに自立活動によって編成する。

**エ** 特別支援学校の小学部において、知的障害者である児童を教育する場合、特に必要のあるときは、各教科、特別の教科 道徳、外国語活動、特別活動及び自立活動の全部又は一部について、合わせて授業を行うことができる。

1 ア・イ

2 ア・ウ

3 ア・エ

4 イ・ウ

5 イ・エ

6 ウ・エ

Ⅱ 学習指導要領に関する次の各問に答えよ。

[問 1] 特別支援学校高等部学習指導要領（平成21年3月告示）の「総則」の「教育課程の編成」の「職業教育に関して配慮すべき事項」に関する記述ア～エのうち、正しいものを選んで組合せとして適切なものは、下の1～6のうちのどれか。解答番号は  。

ア 職業に関する各教科・科目について、実験・実習に担当する授業時数は105単位時間を標準とする。

イ 生徒の生活年齢を考慮し、職業に関する各教科・科目の履修を容易にするため特別な配慮が必要な場合には、各分野における基礎的又は中核的な科目を重点的に選択する。

ウ キャリア教育を推進するために、地域や学校の実態、生徒の特性、進路等を考慮し、地域及び産業界や労働等の業務を行う関係機関との連携を図る。

エ 普通科においては、地域や学校の実態、生徒の特性、進路等を考慮し、必要に応じて、適切な職業に関する各教科・科目の履修の機会の確保について配慮する。

- 1 ア・イ
- 2 ア・ウ
- 3 ア・エ
- 4 イ・ウ
- 5 イ・エ
- 6 ウ・エ

[問 2] 次の記述ア～エのうち、特別支援学校高等部学習指導要領（平成21年3月告示）の「総則」の「教育課程の編成」の「教育課程の実施等に当たって配慮すべき事項」に示されているものとして適切なものには○を、適切でないものには⊖をそれぞれマークせよ。解答番号はアが  、イが  、ウが  、エが  。

ア 海外から帰国した生徒などについては、学校生活への適応を図るとともに、日本での生活に慣れるように体験学習を行うなど適切な指導を行うこと。

イ 学校の教育活動全体を通じて、個に応じた指導を充実するため、個別の指導計画に基づき指導方法や指導体制の工夫改善に努めること。

ウ 現在及び将来の生き方を考え行動する態度や能力を育成することができるよう、学校の教育活動全体を通じてガイダンス機能の充実を図ること。

エ 各教科・科目等の指導に当たっては、生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れるようにすること。

Ⅲ 次の事例を読み、下の各問に答えよ。

生徒Aは、知的障害特別支援学校中学部に在籍する自閉症のある生徒である。

生徒Aの様子

- ・ 聴覚から情報を捉えることは苦手であるものの、視覚からの情報を理解することが得意である。
- ・ 他者の様子に関心があり、進んでコミュニケーションを取ろうとする。
- ・ 気持ちが落ち着かなくなったときに、自らの行動を抑制することが難しく、他者に対して荒々しい行動に及んでしまうことがある。
- ・ 困ったことに直面したときに、他者に援助を求める方法が身に付いていない。
- ・ 険しい表情や口調で話してしまうことが多く、相手に動揺を与えてしまうことがある。
- ・ 感情などを言葉にして話すことが難しく、相手に意思が伝わらないことが多い。
- ・ 一方的に話してしまうことが多く、相手の話を聞くのが苦手なため、会話が成立しにくい。

(「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編(幼稚部・小学部・中学部)(平成30年3月)」から作成)

[問 1] 下線部に関連して、自閉症のある児童・生徒の障害の特性を踏まえた指導に関する記述として**適切でないもの**は、次の1～4のうちのどれか。解答番号は  。

- 1 他者との関わりをもととするが、その方法が十分に身に付いていない児童・生徒に対して、はじめから多くの教師と様々なやりとりを経験するようにする。
- 2 言葉でのコミュニケーションが困難な児童・生徒に対して、話し言葉を補うためにタブレット型端末等を活用して要求を伝えられるようにする。
- 3 音に過敏に反応する児童・生徒に対して、苦手な音がして落ち着かなくなりそうなときにイヤーマフを自分で着用して音量を調節できるようにする。
- 4 身体を前後に動かして自己刺激を過剰に得ようとしている児童・生徒に対して、ブランコ遊びなどの他の適切な活動に置き換えて、同じような感覚を得られるようにする。

[問 2] 次の記述**ア**～**エ**のうち、自閉症のある児童・生徒の障害の特性や「生徒Aの様子」を踏まえた生徒Aへの指導として正しいものを選んだ組合せとして最も適切なものは、下の1～6のうちではどれか。解答番号は  。

**ア** 他者に対して荒々しい行動をしてしまったときに、落ち着くことのできる小部屋を用意し、慣れた別の活動に取り組み、気持ちを落ち着かせるようにする。

**イ** 相手の立場に合わせた言葉遣いや場に応じた声の大きさなどを、実際の生活場面とは切り離し、プリントを使って指導を行う。

**ウ** 絵カードを使って表情から相手の意図を推測する学習を行い、周囲の状況や他者の感情に配慮した伝え方ができるようにする。

**エ** 「もうちょっと優しい言い方なら大丈夫だよ」と、意味内容に幅のある表現を用いて状況に応じた話し方を口頭で伝える。

1 ア・イ

2 ア・ウ

3 ア・エ

4 イ・ウ

5 イ・エ

6 ウ・エ



[問 3] 「生徒Aの様子」を踏まえ、個別指導計画の自立活動の目標を「一方的に話すことを調整しながら、伝えたいことを整理して話す」と設定した。この目標を達成するための具体的な指導内容として、次の記述ア～エのうち、正しいものを選んだ組合せとして最も適切なものは、下の1～6のうちではどれか。解答番号は  。

ア 相手に伝えなければならない事柄を、いつ、どこで、どうしたいかなどの項目を示した資料を見ながら順番に話す機会を設定する。

イ 予定されているスケジュールや予想される事態や状況を伝えたり、事前に体験できる機会を設定したりすることで見通しをもてるようにする。

ウ 日常の会話の様子を動画で撮影し、省みるようにすることで、相手の話を聞きながら話したり、穏やかな口調や表情で相手に接したりするよう意識させる。

エ 話し言葉ではなく、メモ帳やタブレット型端末等を活用して、文字のみで自分の話したいことを相手に伝えるようにする。

1 ア・イ

2 ア・ウ

3 ア・エ

4 イ・ウ

5 イ・エ

6 ウ・エ

IV 障害に関する次の各問に答えよ。

[問 1] 次の記述ア～エは、視覚障害者である児童・生徒の視覚障害の状態に関するものである。正しいものを選んだ組合せとして適切なものは、下の1～6のうちのどれか。解答番号は  。

- ア 視覚障害とは、視機能の永続的な低下により、学習や生活に支障がある状態をいう。片眼だけ視機能の低下がみられる場合も、遠近感覚がないなどの不自由があるため、視覚障害である。
- イ 視力測定はランドルト環を視標とした万国式試視力表を用いる。0.1の視標が5 mの距離から正解できない場合は、それよりも近い距離で測定する。例えば、1 mの距離で0.1の視標が正解できた場合の視力は、0.02である。
- ウ 最小可読視標とは、遠見視力表を用い、一番見やすい距離まで目を近づけてどこまで視標を読み取ることができるかで表す。例えば、「最小可読視標：0.3/5 cm」は、5 cmまで近づければ、0.3の視標が読み取れることである。
- エ 0.01より低い視力は数値で表せないが、明暗も分からない状態を「光覚なし」、明るい暗いかが分かる状態を「光覚（弁）」、眼前で動かした手の動きが分かる状態を「手動（弁）」、眼前の指の数が分かる状態を「指数（弁）」という。

- 1 ア・イ
- 2 ア・ウ
- 3 ア・エ
- 4 イ・ウ
- 5 イ・エ
- 6 ウ・エ

[問 2] 聴覚障害者である児童・生徒に対する指導上の配慮事項に関する記述ア～エのうち、特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）（平成30年3月）に照らして正しいものを選んだ組合せとして最も適切なものは、下の1～6のうちではどれか。解答番号は  。

ア 言葉の意味を理解したり、それによつて的確な言語概念を形成したり、その指導の過程において言語による思考力を高めたりするためには、具体的経験をいかに言葉で表現し理解できるようにするかが極めて大切なことである。

イ 読書の指導に当たっては、児童・生徒がどのような読み方をしているか、果たして読んでいる内容が理解されているかなどの観点から質問などをすることは、児童・生徒の意欲をそぐことになるため、避けなければならない。

ウ 各教科の指導においては、話し合い活動を中心に授業が展開され、そのことを通して、学習内容の理解が図られることから、意思の相互伝達が円滑かつ的確に行われ、それが全体として一層活発化されることが特に望まれる。

エ 児童・生徒が「分かる」ことに支えられて、主体的に学習が進められるよう発展的・応用的な事項に重点を置いたり、興味・関心のある事項を優先的に取り上げたりするなど、工夫して指導するよう努めることが大切である。

1 ア・イ

2 ア・ウ

3 ア・エ

4 イ・ウ

5 イ・エ

6 ウ・エ

[問 3] 肢体不自由特別支援学校における自立活動の指導に関する記述として最も適切なものは、次の1～5のうちではどれか。解答番号は  。

- 1 自立活動の指導を行うためには、特別支援学校自立活動教諭の教員免許状を所有していることが必要である。
- 2 学級担任の教員は、自立活動の指導は自立活動の担当者に全てを任せて、教科等の指導に専念すればよい。
- 3 自立活動の指導は、自立活動の時間を設けてその時間だけ行えばよく、教科等の指導では自立活動の指導を行う必要はない。
- 4 自立活動の指導は、指導目標を数値化してその達成状況に応じて観点別評価を行い、数値による評定を行う。
- 5 障害の状態により、必要に応じて専門の医師やその他の専門家の指導・助言を求めて適切な指導を行う。

[問 4] 次の記述ア～エのうち、知的障害者である児童・生徒の学習上の特性を踏まえた指導に関するものとして適切なものには○を、適切でないものには⊖をそれぞれマークせよ。解答番号はアが  、イが  、ウが  、エが  。

- ア 自発的な活動を大切にし、主体的な活動を促すようにしながら、課題を解決しようとする思考力、判断力、表現力等を育むよう指導する。
- イ 一人一人の児童・生徒の知的障害の状態や経験、興味・関心などを踏まえるとともに、可能な限り実際の場面に即した状況で指導する。
- ウ 将来の社会参加と自立のため、補助具等の学習環境は、発達の段階よりも生活年齢に即して設定し、自力で取り組む力につながるよう指導する。
- エ 学校で学習した内容が、家庭生活を含む日常生活の様々な場面で、学習した内容の深化や、生活の向上につながるよう指導する。

[問 5] 病弱者である児童・生徒に対する指導に関する記述として最も適切なものは、次の1～4のうちではどれか。解答番号は  。

- 1 糖尿病の児童・生徒は、医療機関が主体となり、徹底した健康管理を行うため、学校では、児童・生徒が病状を気にしないように全ての活動に参加させる必要がある。
- 2 白血病の児童・生徒は、治療計画によっては、入院と退院を繰り返すことがあるので、退院時にはすぐに学校に登校し、指導が再開できるようにする必要がある。
- 3 心身症の児童・生徒は、心理的に緊張しやすく、不安になりやすい傾向があるが、病気の原因を把握しつつ、様々な集団に積極的に参加させる必要がある。
- 4 心臓疾患の児童・生徒は、運動制限の範囲を超えて身体を動かして、病状が悪化することがあるので、病状や体調に応じて生活を自己管理できるようにする必要がある。

31 (32採用) 【 特別支援学校 国語 】

問題番号			解答番号	正答1	正答2	正答3	配点	備考
大問番号	小問番号							
1	1	ア	1	1			2	
		イ	2	4			2	
		2		3	1			3
		3		4	4			3
		4		5	3			4
	5		6	2			4	
2	1		7	2			3	
	2		8	4			3	
	3		9	3			4	
	4		10	2			4	
	5		11	1			4	
3	1		12	3			3	
	2		13	2			3	
	3		14	4			3	
	4		15	1			3	
	5		16	6			3	
4	1		17	1			3	
	2	①	18	3			3	
	2	②	19	4			3	
I	1		20	3			3	
	2		21	3			3	
	3		22	3			3	
II	1		23	6			3	
	2	ア	24	-			1	
		イ	25	1			1	
		ウ	26	1			1	
		エ	27	1			1	
III	1		28	1			3	
	2		29	2			3	
	3		30	2			3	
IV	1		31	5			3	
	2		32	2			3	
	3		33	5			3	
	4	ア	34	1			1	
		イ	35	1			1	
		ウ	36	-			1	
		エ	37	1			1	
	5		38	4			2	